

夢 塾 だ よ り

～ スポーツの魅力 ～

(第46号) 令和3年5月27日

沖縄タイムスに「大弦小弦」というコラム欄があり、毎日読ませてもらっています。先日、吉田央さんが書いたコラムに大変感銘を受けました。紹介します。

『スポーツ誌「ナンバー」初代編集長の岡崎満義さんは、スポーツを見る意味を伊藤左千夫の小説「野菊の墓」にたとえた。薄幸のまま早世した初恋の女性を、主人公が「今なお 昨日のごとく」何度も思いだす。

スポーツの名場面も、鮮やかな記憶として残る。繰り返し反すうすると「選手が僕をなぐさめ、柔らかい存在の光で照らしてくれる」と。

グリーンジャケットを着る松山選手も、プールサイドで流した池江選手の涙も、



新たな記憶になる。思い出すと胸が熱くなり、勇気がわく場面との出会いが、スポーツの魅力だと思う。』と記しています。



ちなみに「野菊の墓」は2～3度読みましたが、名作です。主人公は政夫そして、民子。書き出しは次のように始まります。『・・・もはや十年余も過ぎ去った昔のこと

であるから、細かい事実は多くは覚えて居ないけれど、心持だけは今なお昨日の如く、全く当時の心持に立ち返って、涙が留めどなく湧く・・・』

スポーツの魅力を小説の主人公の「女性への思い」にたとえるという発想が斬新で面白いと思いました。だとすると、大方の人はスポーツ観戦に夢中にならなくても、その魅力を十分に感受していることになりますね。だからいつの世も普遍的にスポーツは万人にとって面白いのですね。

最近脚光を浴びつつある「NIE教育」にちなみ、新聞からもう一つ。全国の小・中学生が学校で取り組む「弁当の日」や料理体験を弁当にする、「弁当の日」作文コンクールで最優秀賞の南城市玉城小学校、5年生の吉川結尋さんの作文。これがよかった。(一部抜粋)

「・・・お弁当は不思議です。それがとても簡単にできるおかずだったとしても、お弁当箱につめられているものを、ふたを開けてみた瞬間、ニコッとなるのです。どうしてかなと。お弁当は、それを食べるその人のために作った、普通だけど特別な食事なのかな。と、私は思います。」

夢塾読谷校のH中2の生徒4名の中間テストは100点、98点、94点、92点といい成績でした。皆の頑張りに拍手です。